

写真投稿



今年の元旦。北茨城の初日の出に竜雲が現れ、今年は良いことがありそう!と期待した半日後の能登半島地震。受け入れがたい現実に壊れかかる心。それでも日々の小さな幸運や優しい言の葉に救われ、人は1歩ずつ生きる。

須藤範子さん (12期)



右端が毛利さん

靴紐や肩先に揺れ吾亦紅

地方出身の私は、都会の生活に疲れると山登りやハイキングに出かける。去年の秋から16期の山好きな仲間と低山会なるものを作って山登りを楽しんでいる。今年の9月、低山会の有志で野辺山の低山に登ってきた。花好きの友達が「ああ!あれ吾亦紅だね」の言葉から生まれた俳句である。

毛利朋子さん (16期)

短歌投稿

ひたすらに文字書き優しい倦怠感
万年筆には秘密の力

毎深夜秘密の五分ドアの外
風音気配腕の小犬と

ペンネームののきん(12期)

俳句投稿

科学には解けぬ「満月見る想い」

上弦の月の切なく潔く

月恋ふはいにしえよりの人の性

ペンネーム ののさん(12期)



俳句投稿

日めくりを捲らぬ憂い秋深し

新聞もテレビも敵に学ぶ秋

戦場のすすき御霊に寄り添いぬ

ペンネーム 門松空蘭さん(12期)

如月の夜に秒針のリズム冴え

スカーフに蝶ひらひらと近寄り来

歌詞をまねすすきを髪に旅の宿

ペンネーム 約束と結局さん(12期)

俳句投稿

鶏頭やフィルムに滲む小津の恋

靴紐や肩先に揺れ吾亦紅

晩学の友それぞれ豊の秋

毛利朋子さん(16期)